議事日程(第2号)

令和7年3月4日 午前9時30分開議

日程第1 一般質問

- 通告1番 庵原 伸一 議員 1) 人口減少時代に求められる、持続可能な組織運営のための定員計画を
- 通告2番 西 健太郎 議員 1) 「責任ある観光」の啓発と相島訪問税の創設を
- 通告3番 大牟田 直人 議員 1) 子どもたちの笑顔があふれる公園へ、ボール遊びができる場所とルールのお知らせを
- 2) 下水道への関心を深め、町の魅力を発信するデザインマンホール及びマンホールカードの作成を

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

- 通告1番 庵原 伸一 議員 1) 人口減少時代に求められる、持続可能な組織運営のための定員計画を
- 通告2番 西 健太郎 議員 1) 「責任ある観光」の啓発と相島訪問税の創設を
- 通告3番 大牟田 直人 議員 1) 子どもたちの笑顔があふれる公園へ、ボール遊びができる場所とルールのお知らせを
- 2) 下水道への関心を深め、町の魅力を発信するデザインマンホール及びマンホールカードの作成を

出席議員(12名)

1番	江口 正明君	2番	片岡 誠治君
3番	温水 眞君	4番	安武久美子君
5番	庵原 伸一君	6番	西 健太郎君

7番	大牟田直人君	8番	横大路政之君
9番	北崎 和博君	10番	牧野真紀子君
11番	上畝地白馬君	12番	松井 和行君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

議会事務局長 …………… 井上 美和君 議会事務局主幹 …………… 上野 将司君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……………	桐島 光昭君	副町長 ……………	田中 真人君
教育長 ……………	小川 隆弘君		
総務課長 ……………	森 和也君	地域協働課長 ……………	安河内正路君
政策経営課長 ……………	高木 昭典君	税務課長 ……………	末永富士美君
住民課長 ……………	堺 好行君	健康福祉課長 ……………	尾田 繁男君
子育て支援課長 ……………	山口 望美君	産業振興課長 ……………	森 真二君
環境課長 ……………	片山 勇二君	都市整備課長 ……………	稲光 豊君
上下水道課長 ……………	高橋 忠久君	会計管理者 ……………	桐島 聡君
学校教育課長 ……………	桐島 貴幸君	社会教育課長 ……………	井上 和広君

午前9時30分開会

○議会事務局長（井上 美和君） 起立。礼。おはようございます。ご着席ください。

○議長（松井 和行君） 配付の日程表により直ちに本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（松井 和行君） 日程第1、一般質問を行います。通告順に許可いたします。

通告1番、庵原伸一議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） おはようございます。5番の庵原伸一です。

まず、2月16日に開催されましたミュージカル「ようこそ！ほほえみシティへ！」で町長、特別出演、本当お疲れさまでした。その中で新宮ファイブスターズの歌で、「他人まか

せはもうやめようよ、進んで参加まちづくり、勇気を出して、ここにおいて、ハートを熱く燃やそうよ、我らがやらずに誰がやる、地域社会のまちづくり、住みよいまちを目指そうよ」ということで、何か70周年記念事業の新宮町の事業みたいな感じで、新宮町のことについてのミュージカルだったというふうに覚えております。町職員もそういう中で一丸となって、誰もが新宮町に住み続けたいと思うまちづくりを進めていると確信しております。

それでは、新宮町の定員適正化計画についてお尋ねします。新宮町も、「人がかがやき快適に暮らせる元気なまち、新宮」を将来像に掲げ、まちづくりの中心である人が生きがいを持って、先人たちが残したものを受け継ぎつつ、にぎわいと活力ある未来を描き、様々な課題に挑戦し続けるまちを目指していきます。そのためには、気候変動など、地球環境問題や人口減少、超高齢化社会など、新宮町も避けて通ることができない課題に対して適切に対応していくとともに、引き続き、発展性のあるまちづくりに取り組みながら、見直しが必要なところは見直しを行うという考えのもと、今後の社会情勢を見据えてちょっと令和3年度を始期とする第6次総合計画を基本として、着実にまちづくりを進めていると私は思います。そこでお尋ねします。社会情勢や行政を取り巻く環境が刻々と変化する中であって、複雑高度化する行政課題に的確に対応し、行政サービスの質を維持、向上させていくためには、専門的な能力や経験を有する対応の人材の確保、活躍が一層必要となっていると思うが、そこで質問します。人口減少時代に求められる持続可能な組織運営のための定員管理をということで、質問させていただきます。新宮町は、人口が急増し、行政サービスの需要も高まっている。第1次及び第2次定員計画では、職員数の削減から、適正な職員数の確保へと方針転換がなされている。現行の計画では、現状の職員数は類似団体と比較して非常に少なく、職員の負担が大きい状況であると分析されている。職員数を増やすことは、住民サービスの向上、職員の満足度向上、ひいては組織や全体の活性につながると考える。将来的な人口減少や少子高齢化といった社会情勢の変化を踏まえ、職員数の適正化について、長期的な視点で必要な行政サービスを維持することを念頭に、第4次定員適正化計画を策定すべきと思う。そこで、次のことを伺います。

第1点目。現行の計画において、職員数と業務量のバランスを考慮した上での各部署における必要な職員数の算定根拠は、どのような基準が存在するのか。また、特に、退職者が増加している部署や特定の専門性が不足している部署、職員の負担が過大になっていると感じる部署などの課題はないか。

2点目。職員の質と量は、行政サービスの質に直結すると考える。職員数が不足している状況が続けば、住民へのサービスの低下、職員離職率の高まりやモチベーションの低下が懸念される。現行の計画を検証し、シミュレーションや分析を行い、どのように考えているの

か、見解を伺います。

3点目。職員の適正化について、長期的な視点でどのように考えているのか。特に、必要な行政サービスを維持するために、どのような定員適正化計画を策定すべきと考えているか、見解をお伺いします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。おはようございます。それでは、ただいまの庵原議員のご質問にお答えいたします。

まず、1番目の職員数の算定根拠についてでございますが、新宮町ではこれまで社会情勢の変化や人口の増加、住民ニーズの変化による業務の多様化などに伴いまして、職員定数の適正化を図ることを目的に第3次定員適正化計画を策定いたしまして、計画に沿った職員数の確保を目指してきたところでございます。第1次適正化計画では、国の通知等に基づき、職員定数の削減を目標に掲げ、第2次定員適正化計画では、人口増加や住民サービスの向上を図るため、職員の増加を行う計画となっております。定員適正化計画におきます職員数の算定につきましては、法律等によります明確な根拠はございませんが、新宮町の人口や同じような地方公共団体、これを類似団体と申しますが、その類似団体別職員数などを考慮しながら、現行の計画のように設定をしているものでございます。退職者が増加している部署や専門性が不足している部署などの課題につきましては、毎年度、各課へのヒアリングを実施し、課題等を把握しながら、職員の配置を行ってきているところでございます。また、職員の不足が見込まれるときには、年度途中でも職員採用試験を実施し、職員の確保をできる限り行っております。また、専門性が必要となる部署への配置につきましては、保健師や土木職、渡船職員などの専門職の定期的な採用も行いまして、専門性のさらなる充実に努めたいと考えております。

2番目の現行計画の分析についてでございますが、令和2年度から令和6年度までの計画期間中、職員数は平成31年度の171人から令和6年4月1日に177名と6名増員するものとなっております。令和6年4月の実際の職員数は176名でございますので、大きな差異はないものと考えております。また、現行計画で適正化の手法といたしまして、行政組織機構の見直し、職員の能力向上、ICT化の推進、再任用職員、会計年度任用職員の活用などにより、業務効率を図り、毎年の職員採用を行いながら適正化を行うものとしております。

3番目の長期的視点に立った適正化計画の策定についてですが、当町ではこれまでの人口増加などから職員の増員に努めてきたところでございます。現在では、人口増加は落ちついてきておりますが、住民ニーズの多様化や国の施策による業務量の増加、また職員の退職な

どもあり、各課局における一時的なマンパワー不足が見受けられております。このため、会計年度任用職員の活用による補充対応をとっておりますが、どうしても専門知識を持った正規職員の必要性が高くなってきているところでございます。また、町内では現在、2つの地域で土地区画整理事業が進められていること、さらにはスマートインターチェンジの準備段階調査が実施されることなど、町のさらなる発展が期待されるとともに、今後の人口増加や業務量の増加が予想されているところでございます。また、少子化に伴います労働力不足等の社会的問題もありまして、今後も継続して人材確保に尽力していく必要があると思っております。質問にございます第4次定員適正化計画の策定につきましては、計画期間を5か年計画と予定をいたしております。

現在、庁舎内各課局の状況を把握するため、業務量調査を進めておりまして、調査の結果、またこれまで述べてきてまいりましたことも踏まえて、中長期的な視点を持ちつつ、職員不足とならぬよう、また過大な職員数とならないよう社会情勢や退職者の状況を踏まえながら、将来にわたり良質かつ持続可能な行政サービスを町民の皆様に提供できるよう計画を策定いたしまして、適正な定員管理を行っていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 今3点についてお答えいただきましたけど、ちょっと第3次、この適正化管理の部分について要約させていただきますと、新宮町の人口が5,400人ぐらい増えたので、増やしていかないかと。ただ、新宮町の分についての類似団体について、99類似団体の中で、新宮町の職員が1番少ないと。そういうふうな形で増やしていかないかん。足りない分については、臨時とか、時間的な任用職員で対応されてきたっていうふうな形できたかなというふうに思っております。そこでちょっと、令和5年の町長の所信表明の中で、職員のことについて話をされております。私は町の施設と町の職員はコストではなく、大切な財産と考えます。職員を大切にすることが、町民によりよいサービスを提供する大前提だと私は思っています。職員に最高の力を発揮してもらうためには、できるだけストレスの少ない、風通しのよい働きやすい職場づくりが急務だと考えます。あらゆる種類のハラスメントのない、全ての職員が安心して自分の能力を発揮でき、町民のために働ける職場づくりを進めていきたいと。こういうふうにはっきり新宮町の職員は宝であるし、結局コストとかいうのを考えずにやっていきますというようなことでお答え、証明されておりますけども、ちょっと私もいろいろ今回の分について調べさせていただきますと、新宮町の中でネット上ではですね、こういうふうな形が新しいのはないんですが、グラフで見る糟屋郡新宮町の一般行政部門の職員数というのが出るんですよ。これは2000年から2022年の1

2年間にわたって、新宮町の職員数、人口、それにわたって新宮町の職員が足るか、足りないかという、ちゃんとグラフでやってるわけですけど、この中で新宮町はもう3万人になっておりますので、3万人に対する職員数というのが比較でありますし、全国で何番目かという職員数の順位数も出てきます。それで、1,700ぐらいある団体の中で新宮町は1,138番目、福岡県では42番目で、特にこの中で書いてありますように、非常に少ないと。もうはっきり新宮町の部分について職員が少ないということが出てきております。一度ですね、12年間業務量も調査も必要でしょうけど、そういう全国的に出ておる、こういうのを把握してですね、これ新しい計画をつくっていただきたい。

それと、今回、私が持っております2万人以上の総務省のこの職員定数計画の中で、福岡県の2万人以上の職員数の定数について調べた中ですけど、これをはっきり総務省のホームページ、類似団体職員数の状況、これは令和4年の4月の抜粋ですけど、福岡県で2万人以上ですけどね。これ新宮町、粕屋町、須恵町、篠栗、宇美、岡垣、筑前、水巻、福智町、この中で1番少ないのは新宮町で、トップで出てくる。ブログで少ないというような形でもちろんとはっきり出てきますし、この第3次の中で、99団体の中で1番少ないということになっておりますけど、ちょっとこのあたりについて、類似団体で今度99から職員定数、第4次にかけて大体、どのあたりの類似団体を目指してあるのか、分かればちょっと教えていただきたい。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。計画につきましては、今から内容等検討してまいります。

庵原議員のご質問のように、現在の新宮町の職員数はほかの同じような地方公共団体と比べて非常に少ない状況であるということも認識をいたしております。私、就任いたしまして職員採用については、できるだけ多くとろうというふうに努力をし、また採用もですね、数多く、比較的には採用を出しておるんですけども、何かの折にお話したこともあるかと思いますが、採用決定通知後、辞退者が多いというのが現状です。ですので、こちらは6人確保した、7人確保したと思っても、3月になると今ぐらいの時期に、辞退の電話が当人からかかってきて、6人、7人とるつもりがもう4人とか5人になってしまうということが、ここ2年ぐらい起こっている状況です。ですので、先ほどの回答の中でも申しましたように、どうしても足りないというときもありましたので、そのときは4月1日採用ではなく、年度途中の10月採用とかですね、そういったことの試験もやっておりますけれども、なかなかそれでも募集もないし、応募者も少ない。ましてや、また応募された方、誰でもとるわけにも参りませんので、やはり一定の試験をして、私たちも面接を行って、この方であれば行政

事務を任せられるであろうという方を採用いたしておりますので、なかなか採用についてはですね、こちらの思うとおりにならないというのが現状でございます。よって、次期計画につきましてもそういったことも踏まえながら、また先ほど答えましたように、将来的には人口減少してまいりますので、そこもどういふふうを考えるか。それと、現在DXを進めておりますので、DXにおいては、そういった雑多な事務もICT化によって人員削減をやっぺいこうというふうな考え方で進めますので、その辺も踏まえながらですね、将来の職員数は確保してまいりたいと考えております。

また、先ほど申されたように、職員数が少ないことによって現在の職員ですね、オーバーワーク的な部分もあるのも、こちらとしては認識いたしておりますので、その点については1日も早く解消したいなというふうに加えながら、職員採用は考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 私も職員は少ないと思っておりますし、今町長が言われたように、オーバーワークじゃないかなということで考えております。それで、このActiveの中で公表をされてますね、私が今先ほど言われたように途中で退職されるというふうなことで、途中退職者2023年の分についての公表については、これについては7人退職されております。それでですね、町長任命及び職員に関する状況も含めて、174人が169人でマイナス5人になったって公表なるとるわけですよ。ということは、採用するけど、依頼退職者が多かったと。そういうふうなことも含めて、意外と退職者が多いと。私は退職者ですね、固まった部署であるんじゃないかなと。固まった部署で依頼退職者は多いか何かちょっと分かりませんが、どのような部署が、先ほど言いました課内とか部署とかいふのにあつて、そういうふうな形の依頼退職者が多いのかなということでちょっと心配しておりますけど、ちょっとその辺りについで、依頼退職者、給料が高い方も、そちらのほうに行かれて減になっており思いますが、ちょっとそのあたりは、どのようなふうな形で依頼退職者、この7人の課題についてはどのようなふうな分析とか、そういうふうにな何かされてあれば、2024年も依頼退職者がおられますけど、2024年度は依頼退職者6名、だからそういうふうな形も含めてですね、どのようなふうな分析をされて、依頼退職者が私は同じ担当課で固まってるんじゃないかとちょっと懸念しとるわけですが、その辺りはどのようなふうにな認識してありますか。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） お答えいたします。ただいまおっしゃいました依頼退職者の内容につ

いてはですね、依願退職理由はちょっとプライベートなこともございますのでなかなか申し上げづらいですが、1つは固まった部署から大量に退職しているという認識はありません。当然、こちらは退職理由によってはですね、慰留も行いますけれども、なかなかご本人の意思がかたくて、そのまま退職されたということでございますので、そうですね、今話してるような残業残業で嫌だからやめますという方は、私が聞いた範囲ではいらっしゃいませんし、違う仕事がしたくなったりとかですね、あるいはもう公務員ではなく、民間のほうの仕事でチャレンジしたいとかいうふうなことをおっしゃる方が多かったというふうに覚えております。それが本心なのかどうかはちょっと分かりませんが、でも私と退職届を出された、一対一で話した中ではそういったことが多かったのです、そうですね、あまり今の役場の仕事が嫌だからという方は、あまりいなかったように感じております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） ちょっとそういうようなことで公表はしてありますけど、これを見る限り、依願退職者が増えて、職員は採用しとったけど、今言いましたように、定数は5人マイナスと、そういうような形になっておりますし、この2024年の分については、ちょっと12月も質問しましたが、依願退職者がありますけどですね、分限でお休みになっとる方が8人もおるということで、実質的に町長が言われた176人おるけど、急に8人減れば160何人っていうことで、職員を少ないというようなことでありますし、ちょっとこのあたりについて福岡県の県議会議員でも、2月の一般質問でも同じような質問があった。そういうふうなことで心的負担で、休みになっとる人が増えてると。

その部分についてのケアとか、そういうのはどういふふうに対応していきますかというふうなことで、職員の定数に入っておるわけですけど、町長、現実的には170人おらんというふうなことでありますし、言われましたように、依願退職者のほうについては給与が高いところ、そういうことでやられているっていうふうなこともありますけど、ちょっと私は2023年から24年にかけて、心的負担で休まれるなどが多いということで、非常にこの懸念しとるわけですけど、その辺りはどういふふうにとらえてありますか。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。今いろんな心身の故障によって休んでる職員についてはですね、1つは仕事が変わったことによる、慣れないことへの対応が自分的にはできていないとかいう、そういった悩みとかですね、あるいはお客様からのハラスメントというのも1つの理由ではありましようし、いろんな個人的にケースバイケースといたしますか、一人ひとり理由は違います。私としては、その心身が整ったら、また当然復帰していただきたいし、復帰する

ときも少しずつですね、いきなり丸1日働くのではなく、週に何日間か、午前中だけ午後だけとか、そういったような復帰のしやすいようなプログラムを町として考えながら、その職員に合った形で、できるだけ復帰できるようにというふうなサポートはやっておるつもりでございます。急になぜ多いかと言われても、なかなかケースバイケースで、まとめて概的に話すのもちょっと難しゅうございますけれども、大事なのは1人でもそういった職員が出ないようにですね、日々からケアしていくのが大切だろうと思っておりますし、また、仮にそういうふうに心身の故障が起きても復帰しやすいような環境をつくってやるのが大事だろうというふうに考えております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） やっぱりこういう形で公表してですね、ちょっと私が見ただけでも、心的心の負担の中で、いきなり8人もということについて、新宮町は多いんじゃないかなと。他の自治体は分かりませんが、この数字で見ると、非常に多いので、ちょっと心配しているわけですが、今後の採用とかですね、新しい職員について、こういう形で休まれると、非常に仕事に影響が出てくるんじゃないかなあというふうに思っています。それと、職員の採用の年齢別やいろいろ見てみますと、18歳から23歳、今7人ぐらいしかおられないということですが、負担率の割合から10パーセントちょっと超えるぐらいというふうな感じをするわけですね。他の職員は17人とか20人近くと、年齢ですよ、年齢にすると。その辺りからすると、何か1桁台で他のところは2桁ぐらいの数字ですけど、ちょっとその辺りの採用、今後もしいろいろありましようけど18歳から23歳、23年は5人やったのか、2人増えて7になるとるわけですが、その辺りの年齢構成、いわゆる退職者については令和5年度からちょっと年に1歳ずつ延びていくということで、令和13年度が限度でしょうけど、13年度以降については何もないわけですね、定年退職者に対してどうするかというのはないわけですが。

でも、職員についてはそれ以降については、採用していかないかんわけですが、ちょっと18歳から23歳、このあたりについては、ある程度計画的に適正化計画で採用とか、いろんな形でやっていかないと、いきなりたくさん的人数を採用しても、その辺りが固まってくだけで、将来についてちょっと懸念するところがあるんですけど、ちょっとその辺りについての比率というような形で、今後の採用計画、適正化計画についてもどれぐらいされるか分かりませんが、どういうふうな今後の採用はされるかなということで懸念しておりますけど、ちょっとお答えがあれば。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。年代別の職員の姿というのもでデータとして人事採用、あるいは計画をつくるときには、当然それを基データとして検討いたします。庵原議員おっしゃいますように、若年層が少ない状況ではございますが、ですので今まで一応新宮町は初級試験ということで高卒も大卒も同じような枠でですね、採用の事務を進めておりましたけれども、今、総務課とも人事のほうとも話しておるのは、枠をきちんと設けるかどうかは別として、高校生、高卒を今後必ず取るように、いらっしゃればですけれどもですね、とるような考えを踏まえながらやっていこうというふうには考えております。

ただし、先ほどから庵原議員おっしゃっているように、職員が少ないじゃないかということとを主眼に採用を考えればですね、年代にこだわっておるような悠長なことを言っておる場合じゃないんです。ですので、年齢も今までは30歳とかそこでラインを引いていたのを、技術職は特に59歳まで、もう枠を広げてですね、全年齢でも応募していただけるように、町としてはやっております。その結果、年の差があれば、それはどっちをとるかというのは、またその人のお人柄もありますし、即戦力になるかどうかという考え方、あるいはその年代が足りないので、若年者のほうを取ろうとかいう、それこそ、その時その時に応じていろいろ採用の考え方が変わります。ですので、全体として庵原議員がおっしゃるように、若年が少ないというのはベースとしては考え方ありますので、できるだけ本当6人も7人も多くとれるようなことであればですね、その辺もきっちり補充しながら採用したいという考えは、町といたしても持っておるところでございます。

以上です。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 年齢層である程度やっていかないと、大量に退職して、作業の幅ができてあんまりよくないと思いますので、その辺りは考えてやっていただきたいというふうに思います。それと、先ほど超勤手当のことも少し何か言われましたけど、このA c t i v eの中で超勤手当の平均をあげておりますけども、私はずっともう2年ぐらい言ってきましたけど普通会計の決算で見ると、古賀市に多い支給額総額ですよ。普通会計で新宮町は第2位なんです。ということは40何万出ていますけど、非常にこのあたりについて職員に負担がかかるんじゃないかなということで、やはり超勤手当が多いというのは、いいことじゃないというふうに思っております。

そこで町長も今度、令和7年のこの所信表明でもまた言われましたけども、この中で業務量の増加に伴い、人員が不足しているというふうな形で、私も低年齢層の段階的な引上げっていうのはもう令和5年とかあってますから、そういうことについては、大いに利用していただきたいというふうなことを考えておりますけど、この中で必要であれば、条例定数も見

いうふうに考えますけどですね、今後の専門的なデジタル化、ICT化、町長はいわゆる窓口に来て待たせないというふうなことを言ってありますけど、そういうふうな形で考えてあると思いますけど、そういうことも含めて、私は技術的、全体的に見てもちょっと少ないんじゃないかなというふうに思いますけど、その辺りはどうお考えですか。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。ICT化、そういったデジタル情報化の職員については、専門職を雇うかどうかというのは、人口3万程度の町において必要かどうかというのもですね、基本的には考えていかなきゃならないというふうに思います。ただ、そういった情報に精通した職員の採用を全国的に見ましてもですね、福岡県においても募集しておるけど全然募集に来ない、応募者がいないというふうな状況でして、現在先ほど申してますようにDX化が全国的に進めている関係上、そういった関係の技術者が非常に国内においても少ない状況でございます。ですので、そういった中で、私どもが募集してもですね、どのぐらいの人が手を挙げていただけるのかなというのが非常に懐疑的ですので、現在は招集挨拶のときにも申しましたように、企業のほうから人材を派遣していただいて、新宮町の内容を勉強していただいてですね、私どもの町の事務処理に合ったDXというのをいろいろ提案していただいて、それを少しずつではございますけれども、現在、実現化を図っているところでございます。情報化、技術職としてのそういった職員を募集できれば幸いですけれども、また申しますと私どもの町でその職員を雇うと、もうその職員が退職まで同じ仕事を同じ部分でずっと同じことをやることになるので、そういったのも雇われるほうの人にとっても、なかなか考えが必要なところではないかなというふうに思っておりますので、企業から人材派遣していただくのがいいのか、一般職で雇った職員をある程度そういったことに興味がある職員をですね、そういった部分につけるのか、そういったことをいろいろ考えながら今後進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 私は、ある程度そういうところについては、今後はやっぱり専門的な職員がいるんじゃないかなということでちょっとお尋ねしました。それと、ちょっと職員の給与関係で言いますけど、ラスパイレスのことについてもちょっと私はずっと聞いてきておるわけですけど、新宮町はラスパイレスで非常に少ないほうね。低いほうですね、低いほうです。それで、ラスパイレスの全国的な平均の町村でいきますとですね、指定都市を除くでいきますと、98.3が全国平均、町平均でも97ですけど、新宮町は96.6ぐらいかな。ラスパイレスが低いというふうに認識しております。

今言いますように、町長、途中で給与が高いので民間のほうに行くというのは、福岡県でもそういうふうな事例等がっておりますけど、ある程度は、管内の平均、そういうふうなことも含めて、ラスパイレス100超えれとは言いませんけど、やはり全国平均、県内の平均、その辺りについてを目指してもいいんじゃないかなというふうに考えて、やはりある程度職員の給与がないとやはり生活はできていかんわけですから、ちょっとその辺りのラスパイレスのちょっと考え方についてお尋ねします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。いわゆるラスパイレス指数については、以前から庵原議員からご指摘いただいておりますが、私も決して高いほうだとは思っておりませんので、少しでもこういった数字的なものですね、見て、職員が納得するように、納得するといいますか、満足するといいますか、そういった感じの数字になればいいなというふうに思っております。この数字っていうものが、例えば令和7年度に実施したからすぐポンと出るわけではなく、1年後、2年後にこういった集計がなされて、初めて数字としてあらわれてくるものですので、そういったことも念頭に置きながらですね、いろいろ工夫を、どういった工夫があるのか、ちょっと今ここでは分かりませんが考えていきたいというふうに思っております。

それと、1つはですね、先ほど庵原議員からもご指摘がありましたように、若年層が少ないというのがですね、1つはラスが低い理由でございます。今、若年層が非常に給料の改定においても手厚く見直されておりますので、その職員が他の年齢層に比べて多い市町村はですね、ラスが自然と上がってまいります。逆に申しますと、先ほど庵原議員がおっしゃったように、新宮町は若年層の職員が少ないので、全体的な給料が上がっても、ラスとしてはあまり上がってこないという状況もございますので、その辺もご認識いただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 是非、ラスパイレスを上げる工夫をやって、職員が新宮町の職員でずっとおられるようにやはり考えていっていただいて、若年層が低いと下がるというんやなくて、若年層も低くても上がるというふうに、ちょっと逆に働きやすい、あれを目指してほしいというふうに思っております。それと、第4次の適正化の中で業務量調査の中で、私が今3万人とかいろんな形で言われましたけど、この全国の3万人の中で、新宮町がこれ見ますとはっきり1番下、Vの字のビクトリーの1番下、新宮町に出てくる、低いというふうな形ではっきり出てくるわけですが、この先ほど言われました、1万人以上を対象に

ってというのがちょっとよく分からんとですけど、新宮町はもう既に3万人おるわけですけど、累計に属する団体を類似団体として、累計ごとに人口1万人当たりの職員数の平均値を算出し、その累計に属する団体を類似団体として職員数の比較をする。参考指標、本町の累計区分、町村V2ですかね、ここの類似団体、先ほど言いましたように、新宮町は2万人になっても福岡県内の町村では職員数が少ないというのは、トップに出てくるとですよ。それを含めて、今度の第4次の分については、1万人で既に人口が3万人であるのに対して、その比較で1万人というのは、どういう根拠かなというふうにお尋ねします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。多分1万人当たりの職員数という数字がですね、全国的な数字として先ほどから申しています類似団体の比較的な資料として出ているので、人口3万人当たりのデータというのが、存在しないのか、あるいは出そうとすれば、町のほうで計算しながら、資料として出さないといけないのかというふうなことであろうというふうに思います。すみません、ちょっと的確にお答えすることはできませんが、人口1万人当たりで職員数が何人おるんだという比較がですね、全国的にあるデータということじゃないのかなというふうに私は思います。なぜ3万人でしないのかというのは、ちょっと私も今お答えすることはできません。すみません。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 私が持っている2万人以上の分についてもですね、これはですね、2万人以上で産業構造2次、3次、80パーセント以上かつ3次、60パーセント以上の団体、この分について、これは総務省のホームページ、類似団体別職員数の状況、令和4年4月1日時点よりの抜粋で2万人以上というのが出てくるとですよ。それでも新宮町はすると少ないというふうになってくるので、3万人でも新宮町はこの全国のグラフでは少なくて、この類似団体というのは今度も99の類似団体で1番少ないというのは、1万人を対象して今度、類似団体数、どこまでっていうのを適正化の中で出されるわけですか。お尋ねします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。先ほどからお答えしていますように計画、今から計画をいたしますので、どうやってやろうかという、そこまでまだ現在検討に至っておりません。

先ほどから申しておりますように、人口2万人以上、人口1万人以上というのは、類似団体のいわゆるクラス分けの定義の人口でございまして、人口3万人というクラス分けはないからですね。先ほど議員がおっしゃったように、それをするには職員が手計算でまたしなきゃならないと。ということは、また残業が増えるかもしれないということになりますので、

どちらをとるのかというのはありますけれども、町としては現在、多分これ総務省が出しているデータと思いますが、そういったものを用いてですね、それから類推しながら、計画というのは策定していきたいというふうに考えております。ですので、どのデータを根拠として、今から5年間の計画をつくるかというのは、まだ検討決めておりませんので。はい。よろしく願いいたします。

○議長（松井 和行君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） いろいろ言わせていただきましたので、ちょっとその辺りも含めてですね、職員の177ですけど第4次に向けて、第4次計画、私はどれぐらい増やしてくれるのかなあといろいろな業務量調査の中で、今からされるということですけど、ぜひ反映させていただきたい。そういうことも含めまして、やっぱり心的負担で一気に8倍になって休むということについては、ちょっと業務量の調査もみんなしっかり把握していただいて、その辺りについてはしっかりやっていただいて。令和5年の最後にですね、本田技研の創業者でちょっとテレビで言ってありましたけど、人間の評価について、社長は何でも偉くはない、課長、部長も、包丁、盲腸と同じ、要するに命令系統はちゃんと縦社会をやっていないかんけど、1人の従業員の持つ能力や個性は、全て町長、長年にわたって働きやすい環境にすることが、新宮町役場職員になってよかったと思うことで、より良い人材が確保できて、安心して自分の能力が発揮でき、町民のために働ける環境をつくってください。ぜひ第4次適正化計画は、新宮町の職員のために、ひとつよろしく、私もOBの職員ですので重ねてお願いしておきます。

以上で終わります。

○議長（松井 和行君） 答弁はいいですか。

○議員（5番 庵原 伸一君） 答弁を一つ。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。4次計画、やりやすい職場環境をつくるための計画であると思っておりますので、その実現に向けた計画をですね、きっちり検討して策定してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） ここで10時35分まで休憩いたします。

午前10時25分休憩

.....
午前10時35分再開

○議長（松井 和行君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告2番。西健太郎議員。

○議員（6番 西 健太郎君） おはようございます。6番議員の西健太郎です。

本日は、質問事項としまして、「責任ある観光」の啓発と相島訪問税の創設を、というテーマで質問させていただきます。質問の要旨に入る前にですね、要旨の中に出てくる用語の中で、ちょっと分かりにくいというか、耳なれない言葉もございますので、そちらのほうをまずご説明してから、要旨のほうに入っていきたいと思います。まず、要旨の中で述べています「責任ある観光」ということなんですけども、これはですね、観光客が訪れる場所や人々に対して、ポジティブな影響を与えようとする観光の形態のことです。環境保護ですとか、文化尊重、地域経済への貢献を重視するというので、具体例としては、以下のようなものがございます。環境保護に関しては、自然環境を保護するために、ごみを捨てない、リサイクルを実践する、エコツアーに参加するなど。文化尊重に関しては、現地の文化や伝統を尊重し、地元の習慣を理解し、適切な行動をとること。地域経済への貢献に関しては、地元の製品やサービスを利用することで、地域経済をサポートすること。例えばですね、地元のレストランで食事をするであるとか、地元のガイドを雇うなどというものが責任ある観光ということになります。次にですね、ピクトグラムに関してなんですけれども、ピクトグラムとは、情報や注意を示すために表示される案内記号のことで、文字のかわりに視覚的図記号で表現するといったものになります。

書画カメラをお願いします。

〔書画カメラの映像を投映する〕

これはですね、街中で見かけるピクトグラムなんですけども、天神地下街でちょっと撮影させていただきました。トイレを表すピクトグラムになりまして、左側の目立った形で出ている左側が男性、紳士ですね。右側が女性、淑女という形で、トイレのマークですね。これが女性トイレ、これが男性トイレという形で、見た感じでもうすぐにパッと視覚的に認識できるってというようなこと。これ以外にも例えば非常口、これも非常口というのがパッと分かるというような形で、どこにも非常口ということは言葉としては書いていませんけれども、図示することで理解してもらおうというようなことになります。これなんかは授乳室ということで哺乳瓶のマーク、あとベットの赤ちゃんを寝かせて、お母さんが世話をしているようなマークということで、このピクトグラムっていうのは東京オリンピックのときに開会式に、ピクトグラムが紹介されて、パフォーマンスでその格好をするというようなことがされていたりとかですね、あとパリ五輪でも、ピクトグラムが何かつくられて提示されたりとかして、いろいろ大きなイベントとかでも取り扱われているような形で、そうしたものを契機にしていろいろな情報を提示するというような形でつくられております。

書画カメラ、消してください。

〔書画カメラの投映を中止する〕

あとスポGOMIについてですけども、スポGOMIというのは一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブというところが主体となって行っているイベントのことですね、チームのメンバーと制限時間内にごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツということで紹介されています。そうしたような形で、各地で開催されているスポーツイベントだそうです。では、質問の要旨のほうに移らせていただきたいと思います。相島への渡船利用者数は、令和5年度において17万3,808人を記録しました。多くの観光客が相島を訪れており、大型連休時には渡船しんぐうの輸送能力を超える利用に対応するために、臨時便運航を余儀なくされることも少なくありません。また、一部の観光客による島民の住宅敷地への無断立ち入りや島猫への餌やり、釣り客などのマナー違反が散見されます。島民・観光客双方がメリットを享受するためにも、相島の環境を保全する「責任ある観光」の理念を観光客に啓発するとともに、観光客の訪問が相島の魅力向上につながる具体的施策の実施が必要であると考えます。

そこで、以下の4点について伺います。1、現在、実施されている相島の観光基盤整備や環境保全の具体的な施策の状況は。2、観光客に「責任ある観光」を促すため、相島活性化協議会、町、地域の大学の3者が協働で、町公式ピクトグラムを制作・設置し、島の自然や生活環境を尊重するようマナー啓発を行ってはどうか。3、社会奉仕活動「競技」であるスポGOMIなどの定期的な開催を通じ、相島の環境保全に取り組んではどうか。4、1、2、3の施策などに充てる財源として、相島訪問税を創設してはどうか。

以上、お伺いいたします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。はじめに、1番目の観光基盤整備や環境保全の具体策についてでございますが、現在、相島におきます観光基盤整備につきましては、インターネット環境といたしまして、新宮・相島間の光ケーブルを令和4年度に整備したことによりまして、Wi-Fi環境が相島渡船待合所、島の駅相島の公共施設でございまして、新宮町フリーWi-Fiとして提供をいたしております。施設的なものといたしましては、島の駅相島の2階がコロナ禍以降休憩スペースとなっておりますが、昨年11月に新たな事業所が決まりまして、今年に入って軽食の提供をいたしております。また、令和3年度からは、九州電力と相島、本町で産業創出、暮らし対策、移住者対策の3つの対策につきまして、Qでんにぎわい創業プロジェクトとして協働して、地域課題の解決に取り組んでおります。このほか相島住民の皆様の取組といたしまして、平成29年度に相島の住民の方々を中

心に、相島活性化協議会が設立され、島内各種団体参加のもと、相島の将来について、観光も含め、活性化していく協議がなされているところでございます。その協議の中で、これまでも猫目的の観光客の方々が増加したことによる弊害の対策といたしまして、環境美化の取組について話し合われ、該当者にごみを拾ってもらい、所定の場所に捨ててもらったり猫用トイレの設置、猫への餌やりのルールの周知など、様々な対策に取り組まれてきているところでございます。コロナ禍の影響もありまして、現在では取り組まれていないものもございしますが、現在、改めて猫と観光に関する問題につきまして、検討を進められているようでございます。

2番目のご質問、「責任ある観光」につきましては、日本政府観光局によると、旅行者が訪問地の自然や生態系に配慮し、その土地の習慣、マナー、地域住民の生活等を尊重した行動をとることとされており、それが環境保全や伝統文化の保護等につながり、地域の持続可能性の確保につながるとされております。先ほど申しました相島での環境美化の取組などは、観光で訪れる皆様へもお願いして実施していた部分もでございます。観光客はご存じのとおり、外国の方も多い状況ですので、ピクトグラムでの注意、周知は有効かと考えております。ピクトグラムにつきましては、観光庁が作成しております観光客へのマナーの周知、啓発に活用でき、多言語表記にも対応した観光客向けピクトグラムなど利用できるものもありそうですが、島の特性に応じて別途検討が必要な部分もあるかと考えております。これからの島での取組により、必要に応じて検討してまいりたいと考えております。

3番目のスポGOMIに関するご提案についてでございますが、新宮町におきましても、令和5年6月に新宮海岸におきまして、民間事業者により開催されまして、本町も講演をいたしたところでございます。ワールドカップとして世界大会も開催されるなど、盛り上がりを感じているところでございます。ご提案につきましては、相島での大会を開催し、環境美化活動と観光につなげていくためのご提案かと存じますが、心配されますのがそれに参加される方々の渡船の輸送能力についてでございます。既に現在でもたくさんの方に渡船を利用していただいているところ、このイベントを実施することによりまして、参加者が押し寄せることになるため、十分な輸送能力の確保やイベントの時期、時間帯、規模など慎重に検討する必要があると感じております。また、スポGOMIによりまして集められたごみの運搬、処分費用の負担などについても検討が別途必要かと感じております。相島の環境保全に当たりましては、新宮相島漁業協同組合が中心となり、相島の住民の方々も協力して毎年、清掃活動を実施されております。そのほかボランティアで自主的に美化活動された話も伺っておりますので、今後どのような方法が良いか検討をさらに重ねてまいりたいと思います。

最後の4番目の相島の訪問税の創設についてですが、訪問税は法定外税として、全国標準

を上回る行政サービスや施策の財源として課税されるのが基本とされ、制度の創設が総務大臣の同意も必要でございます。観光客が増加しているとはいえ、現在の相島におきまして、訪問税等の導入の検討は町としては現在いたしておりません。相島の観光資源整備や環境保全のための財源確保につきましては、西議員ご提案の法定外税のほか、クラウドファンディングをはじめとした寄附金や募金なども考えられると考えております。

また、現在のふるさと納税、ふるさと寄附金でも啓発ができないか、どのような方法が最適であるかなど、相島の方々のご意見も確認しながら検討をしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） はい。相島の観光基盤整備ということで、Wi-Fiによるネット環境であるとか光ケーブルですね、できているということなんですけども、なかなかハードはできているんですが、今ホームページのほうを何か検討中だということを一応、担当課のほうで何かされているような話をちょっと伺ったんですけど、そういった形でやっぱり町としてどういう形で訪れてくださいというようなことであるとか、あとこれだけは島民の方、島にとってよくないのでやめてくださいとかっていうことは啓発していくっていうことは、私も必要だなと思って今回質問させていただいているんですけども、今、町長のほうから観光のことにする基盤整備の答弁をいただいたんですけども、新宮町の離島振興計画の第4章の9によると、観光の開発に関することということで、現状課題として食とか歴史、アクティビティなど様々な面から島民に還元できる観光事業の仕組みづくりが必要であると。施策の内容として、いろいろ挙がっているんですけども、島内のビューポイントに設置してある休憩所、ベンチの維持管理、新たな施設の整備であるとか、祭りや歴史などの隠れた観光資源の見直し、島民が協力でき、島民にも利益還元ができるようなイベント創出、来訪者のニーズや目的に合った観光情報の発信、外国人観光客に向けた多言語案内の表記、文化財の総合的かつ計画的な保存、活用というようなものがあがっています。やっぱりポイントとなるのは、人が来られてにぎわいがあるけれども、そのことによって相島自体がよくなっていくとか、本当に島民の方に還元されるっていうことってというのが重要だと思いますし、そうした意味でまず平穏な生活が乱されないということ、プラス、メリットもある、来られる方にも島民の方にもメリットがあるというような仕組みづくりは、私は大事であるというふうに考えています。今の状況でいうと、先ほど冒頭に述べましたように、マナー違反がちょっと散見されたりとかしますので、まずそこら辺からですね、きっちりやるということで、ピクトグラムをつくってはどうかという提案をさせていただいたんですけども、世界遺産で有名な白川郷、五箇山の合掌造り集落のある岐阜県の白川村ではですね、住民の生活空間で

ある住宅地を観光に開放しているために、美しい景観を守りながら住民と観光客が共存できるよう、集落独自のマナー、ルールで観光客の行動を制限している、というふうな形でやっております。マナー向上の取組としては、第1段階において白川村の場合は漫画を用いたマナー啓発をつくられて、第2段階として公式ピクトグラム制作に組み込まれた上で、第3段階でレスポンスブルーツーリズム「責任ある観光」に着目した。観光客が旅先で責任ある行動をとることで、持続可能な観光を実現しようとするもので、旅行先及び旅行中の両段階において啓発を通じて、地域のマナーに関する理解を深めてもらうことで、観光客と地域住民との間の摩擦を軽減するというのが期待できます。

先ほど町長が、ピクトグラムはなんか前向きに検討されるというような話でしたので、私もぜひ町公式でつくったほうがいいと思っています。やっぱりばらばらに作って何かいろんなものが乱立したら、統一感もないですし、そういうものをつくったほうがいいと思うんですけど、ただそこをつくるに当たって私が述べさせていただいたように、島民の方とか、あるいは地域の大学とか、そういういろんな関係をする機関とか団体とかを巻き込んだ形で、それを1つの契機に相島を盛り上げていくというようなね、仕掛けとしてつくったらどうかと思うんですけど、そのちょっとピクトグラムに関してなんですけども、町長としてはそういう形で地域のいろんな関係機関とか含めてですね、やっていくことも検討してはどうかと私は思うんですけども、その点はいかがでしょう。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。ピクトグラムの表示による来島者の方への情報提供というのは、非常に有効であろうと思います。西議員おっしゃっていますように、町独自、島独自のやつをつくるのか、先ほど申しましたような現在も規格化されているピクトグラムを数多くあるみたいですので、そちらを使うのかということになりますけれども、私は一義的には図示規格であったり、先ほど観光庁ですか、そういったものが提示しているもの、一義的には使ったらいかがかなというふうに思います。どうしてもそれにはない要素のピクトグラムが必要であれば、先ほど西議員もおっしゃったような関係者の方々に考えてもらうというふうなことも考えられると思いますけれども、一義的には相島活性協議会のほうに協議していただいて、自分たちでは作りきらんのであれば、そういったデザインとかに優れたですね、そういった方々を呼んで検討したいということであれば、そういったことのご協力をしていきたいというふうに思います。ピクトグラムは重ねて申しますけれども、有効な情報伝達手段だと思いますので、分かりやすいものであればですね、設置するのは考えていいと思っております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） 書画カメラをお願いします。

〔書画カメラの映像を投映する〕

こちらのほうがですね、白川村で、ちょっと見えにくいかもしれないんですけども、提示されているピクトグラムで、オリジナルのもので、検討した結果、こういう形で。雪が上から落ちてきたら危ないから、落雪注意をする、オーバーヘッドとかね、そういうような形でやっていて、こういう感じで訪れた方が先ほどもあったけど、やっぱりデザイン性というのが結構、重要だと思うんですね。やはり既存のものじゃなくて、オリジナルティがあるほうが訪れたとき、示されたときにちょっと印象が違ってくるっていうか、先ほどの天神地下街のピクトグラムも見ていただきましたけど、あれも普通のトイレのピクトグラムとは違って、少しデザイン性があったと思います。目を引く形で、印象に残るっていうのもあると思いますし、何か華やいだ都会的な風といいますか、そういったものが相島にも何か加味されたいんじゃないかなというふうなことを僕は思っているんです。それを先ほど言いましたように、プロに頼むのもいいんですけど、大学とかがせっかくデザイン学部のある大学とかが近郊にあります。

〔書画カメラの投映を中止する〕

そうしたところとかと協働してですね、費用につきましてはちょっと先ほど言いましたように、訪問税っていうことをちょっと考えていたんですけども、訪問税というような形で訪問いただく方々に負担していただいて、それを財源にしてやったらどうかなというふうに思っております。スポGOMIっていう提案を私もさせていただいて、町長のほうから先ほど、要は輸送能力の問題っていう部分でなかなか難しいということがあったと思うんですけど、私自身はですね、スポGOMIっていうのは一つ、新宮の海岸で以前されたということで、実績もあるし、どういうものかというのも立ち会ったわけではないですけども、町長も行かれたっていうことなので分かってらっしゃる部分もあると思うんですけど、そういう実績もありますし、町内の事業者もあるし、比較的やりやすいのかなと思ったんですけど、ただ確かに搬出、ごみの集めた搬出の問題とか、そういう部分をクリアしなきゃいけないので、いろいろ工夫のやり方でやらなきゃいけない面もあるだろうし、これ自体は私は1例として挙げているので、基本的には相島の活性化協議会の中でもいろいろこういうことをやりたいというのがあるけれども、例えばその財源不足でできないとかっていう部分に、先ほど言いました訪問税っていうか、そういうものを創設して充てることで、活性化ということで広くですね、相島にとってメリットがあるっていうか、そういう形にしないと現状訪問客が来てても、相島に経済的にはお金が落ちるとするのは限られた飲食店であるとかだけなので、やっ

ぱり何がしか、そういう経済が回るような形っていうのを何かしていきたいなというふうな思いで質問をさせていただきました。先ほど総務大臣の同意が必要であるっていうような形で、相島訪問税のことを町長おっしゃられていたんですけども、安芸の宮島ですね、廿日市市の、そちらのほうで宮島訪問税っていうものも創設しております。宮島訪問税の事例としまして、地方交付税において外部からの来訪者を算定基礎とする措置がなされていないという現状がありまして、来訪者を原因とする行政上のコストが生じていたと。ごみ処理であるとか、渋滞対策とか、新宮町でも車の渋滞はないですけども、バスのコミュニティバスがもうやっぱり混雑していて、実際、満員で乗れないという事例もあるんじゃないかなと思うんですけど、そういうような状態があつて、その原因者の課税で対応することとなったんですが、宮島の住民が入島する行為を観光客と同等に取り扱うことの合理性、正当性など様々な課題を解決できずに、法定外目的税として導入するのは断念したということです。ただ法定外普通税として、乗船時に特別徴収ということで、島民は除外するということです。それで、概要は名称としても廿日市市宮島訪問税ということで、課税対象は宮島町の区域を訪問する人、ただし次を除くということで、宮島町の住民、宮島町の区域にある事務所、事業所に通勤する者、宮島町の区域に当たる学校、保育所等に通う児童・幼児等は除外すると。こうした人たちにテクニカルなところですけども、課税対象外証明書というものを発行して、それに対応すると。税額については、訪問者が訪問するごとに1人1回につき100円、都度払いというような形でされています。1年分を一時に納付する場合は、訪問者1人1年ごとに500円という形で年払いというようなこともされていて、ボランティアや介護等の往来頻度の高い訪問者への負担軽減として、制度設計をしていて、これらの方々に対しては1年分の一時納付証明書を発行するということ。課税免除としては未就学児、修学旅行、その他の行事への参加児童、生徒や引率者、付添い人などあと療育手帳、精神障害者保健福祉手帳または身体障害者手帳を交付されている障がい者などが課税免除というような形で、徴収方法は特別徴収で1年分の一時納付、年払いについては市の窓口等での事前申告納付とかいう形でやって、先進事例としてはありますので、新宮町でもできなくはないのかなと思うんですけども、その辺りについて、やはりちょっとあれですか、町長としてはまだ難しかろうかなというようなお考えをお持ちのままでしょうか。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。宮島における訪問税についてですけども、法定外税を設定する、条例において設定するには、基本的な考え方として通常は市町村が普通に徴収している税金で、通常の観光客のための費用は、相島に例えたら新宮町の町民の税金で対応する。それを、もうそのキャパを超えるような負担が発生している場合に、こうい

った外税ですかね、そういったものを設定することができるんだというのがベースとしての考え方にはあるんだろうと思うんですよ。その中で、宮島の来島者数等を見ますとですね、宮島の人口が宮島地域ですね、の人口が1,674人に対して来訪者は年間465万人来ると。相島は、年間推計ですけれども、年間でも4万人程度というものなんですね。そこで、その4万人を新宮町民でみるのが負担なのかどうなのか、宮島の1,600人の島に対して460万人。廿日市市全体の人口でも11万4,000人あまりですので、年間465万人の訪問客に対して11万の人口の市が負担するのがどうなのかという協議、検討がなされた上で、法人外税が定められているんだろうと思うんですよ。ですので、総務大臣との協議、また同意が必要ということで、総務大臣も可能な限りと申しますか、同意しなさいみたいなふうなことは法的にも書いてありますけれども、実質、実際に協議しておりませんので、そういったことが返ってくるのか想定つきませんけれども、このくらいのレベルじゃないとちょっとやっぱり難しいのかなというふうにはですね、外形的には思います。言いましたように、町の財政負担で年間4万人の人たちが来ることによる費用増の分をみるのが適当なのかどうなのかという、そこはちょっと難しい判断だろうと思いますので、まだ、現在の段階ではそこまで町の財政にとっても大きな負担になっているとは考えておりませんので、税の導入というものについては、ちょっとまだ慎重であるべきかなというふうに思います。寄附金ですかね、訪問に当たっての。立花山でも、今もあるかどうか分かりませんが、昔、頂上に山をあれするための寄附金、募金箱みたいなのを置いてありましたけれども、そういったものを環境整備協力金とかですね、そういったものもできないかどうか、したらどういうふうになるんだというふうなものも考えながら、税の導入については慎重に検討していかなければならないというふうに考えております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） はい。確かにそうですね。町長おっしゃることはよく分かるんですけど、今、税の導入ということでちょっと慎重にという話だったんですけど、ちょっとやりとりの中で担当課のほうから料ではどうですかという、税ではなくて料ではどうかっていうのがあって、ちょっとその辺りはいま私、よく分かっていなかったんですけど、税と料の違いで言って、料と言ってやれるものではないんですかね。これは難しいんですかね。料金の料、訪問税じゃなくて訪問料だったらどうかみたいな。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） ただいまの西議員の質問に対して反問権を行使させていただきたいんですが、よろしいでしょうか。

○議長（松井 和行君） ただいまの反問については、これを許可します。

町長。

○町長（桐島 光昭君） 西議員のただいまのご質問の料というご質問ですが、それは条例等で定める料なのか、それとも条例等で定めない、いわゆる入島の相島の環境整備に関する協礼金、募金、そういった類いの意味合いでおっしゃっているのかの確認をさせていただきたいと思います。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） 条例等で定めるっていうほうですね。サービスで、要は任意でいただくという形じゃなくて、条例とかで定めるという意味で言っております。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） すみません。そこについては、強制権、強制力を伴うものであれば、税とそんなに変わらないものになるかと思しますので、その辺はちょっとそういったことを管理するであろうところとの協議が必要だろうと思えます。また、それについて罰則を設けるのかどうかとかですね。そういったことも出てまいりますので、料を条例として定めるのであれば、払った方と払われない方が出ろうかと思えます。その払った方が一方的に払ったことに不利益を生じないような手だても、町としては当然とっていかなければならないので、その辺がどういうふうになるかというのはちょっとよく検討してみないと、きっちりしたお答えできません。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） 一応、西議員が反問権に対して答弁されましたので、一応、ここで町長、先ほどの西議員の反問に対する答弁でよろしいでしょうか。納得いきましたか？西議員の反問に対する答弁、納得いきましたか。はい。そしたら、それで町長、もともとの質問の答弁に戻りますので、お答えください。

町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。類似するものとして、沖縄県ですかね。竹富町というところが島の入島料をやっているようでございますが、これは条例で制定しているかどうかちゅうのは、ちょっと私も今手元の資料では判断できませんが、それによりますと、入域、入島される方の大体1割ほどの方が、それに協力されていらっしゃるということですので、それも、その辺のお気持ちを贈与いただくというふうな形であれば、現在、今あるかどうか分かりませんが、以前も相島のほうで募金箱等を置かれていたということですので、そういったことは可能だというふうには思っております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） はい。そうですね、いろいろとハードルがあるってということで、町長のお考えとしては皆さんから等しくいただくというような形で訪問客、観光客の方からいただくというのはちょっと控えたいということだと思います。今回の私の質問の主旨というのは、やはりこれだけ観光客の方が4万人ですかね、来られてて、島がにぎわってるけど、地域の循環経済っていうか、そういう部分にはあまり生かされていないんじゃないかなという、何とか島が潤うといいますか、活性化するような形で持っていきたいということで、そういう制度設計ができないかなというような意図での質問ですので、これに変わる、何かしつかりとした施策をやっぱり町のほうで打ち出していかなければいけないと思うんですけども、その辺り何か町長としては、今後の展望としてですね、何か考えていらっしゃるがあれば、ちょっとお聞かせいただきたいんですけど。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。西議員、ご質問されていますように今、先ほど申しました推計4万人程度のお客さんが来られているということですので、4万人来られてる方が、もうちょっと、いわゆる相島にお金を落とすような仕組みづくりが必要じゃないかということは、私も当然思っておりますし、周辺の方々からももったいないという言葉をよくいただきます。

ただ、一時期、相島に新たなお店等もできましたけれども、現在は閉店状態というのであります。よく聞いてみますと、やはり土日とか多いけれども平日がやっぱり全然、少ないので商売としてはやはり成り立たないんだというふうなことを経営者の方おっしゃっています。その辺の土日だけではなく、平日等でも経営がうまくいくような、そういったうまいやり方がないかどうかというのはですねいろいろ考えますけれども、なかなかいいアイデアが浮かんでまいりません。相島活性化協議会でも、そういったことは検討なさってるんだろうと思いますけれども、今からでもまだ知恵を出し合いながら、そういった仕組みづくり、スキームができれば、町としては当然協力してやっていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 西議員。

○議員（6番 西 健太郎君） はい。町長が今、答弁いただいて、しっかりとですね、町としてやっぱり相島のことを考えて、きっちりと将来に向かって、やっぱり島に住まれる方がやっぱり誇りを持って、地域に愛着を持って、穏やかに過ごせるような施策を打っていく必要があると私は思いますので、そういうことを期待しまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松井 和行君） 通告3番、大牟田直人議員。

○議員（7番 大牟田 直人君） おはようございます。7番議員の大牟田です。

昨日はひな祭りだったと思うのですが、皆さんどのように過ごされましたでしょうか。私、夜がちらしずしです、ひな祭りを満喫したところです。皆さん、あんまりひな祭りを感じることがないかなと思ひまして、今日は感じてもらおうと思ひて、ちょっと工作してきましたので。何だろうと思ひます？分かりますかね。烏帽子です。お内裏様です。これを昨日、通学路でかぶったんですけど、なかなか子どもたち気づきませんで、ややウケって感じでした。今日は皆さん、笑っていただきましたでしょうか。皆さんに笑顔になって欲しくて、これをさせていただきました。今日の質問はですね、笑顔あふれる町につながる2つの質問をさせていただきたいと思ひております。まず最初の質問ですが、子どもたちの笑顔あふれる公園へ、ボール遊びができる場所とルールをの周知を、という質問をさせていただきます。子どもたちがボール遊びができる公園を知りたいという声をよく聞きます。しかし、「どの公園でボール遊びができるか分からない」という声や、「ボール遊びができる場所が少ない」という課題があります。知らないだけかもしれないけど、課題があります。放課後や休日、子どもたちが思い切り体を動かして遊ぶためには、安全で適切なボール遊び空間の確保が必要であると思ひます。子どもたちが安心してボール遊びを楽しめる空間を確保するため、次の2点をお伺ひします。

ボール遊びができる公園の情報をホームページなどで分かりやすく公開することはできないでしょうか。

2番目、公園におけるボール遊びのルールについて、看板の設置や広報などを通じて、子どもたちや保護者へ周知を図ることができないでしょうか。

以上2点お伺ひします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。お答えいたします。はじめに、町内のボール遊びに関する公園の状況について、ご説明したいと思います。現在、町内には80か所の、いわゆる公園がございます。このうち、野球ボールやサッカーボールなどの利用がOK、可とする公園が7か所、軟らかいゴムボール程度の利用を可とする公園が38か所、ボール遊びを禁止している公園が35か所となっております。今申し上げましたボール遊びの可否は、公園の規模やフェンス等の設置の状況、公園が設置されている行政区のほうのご意向を踏まえて決定した令和4年度時点の調査の結果でございます。また、公園以外でボール遊びができる町の施設といたしましては、各小学校の運動場が平日の放課後17時まで、杜の宮グラウンドにつきましては毎月第2土曜日の8時から18時まで開放して、ご利用をいただいているところでございます。

1 番目のボール遊びができる公園の情報をホームページなどで分かりやすく公開することはできないか、というご質問についてでございますが、公園に関する情報につきましては現在、子育て支援課が発行いたしております子育てガイドに規模の大きい公園の情報を掲載している程度でございます、これまでホームページ上での情報提供は行っておりませんでした。今後は、駐車場がある規模の大きい公園などについて、公園の場所や施設、ボール遊びの可否などに関する情報を町民向けに分かりやすく、ホームページ上で公開できるように準備検討をしてみたいと思っております。

次に、2 番目の公園におけるボール遊びのルールについて、看板の設置や広報などを通じて、子どもたちや保護者への周知を図ることができないか、というご質問についてでございますが、ボール遊びのルールに関する内容を含め、公園の利用に関するルールを利用者に周知することは、安全かつ快適に公園利用できる環境を整える上で重要なことであると、町としても認識をいたしております。現状として、公園利用上のルールを周知する看板等は、比較的近年に整備された利用者の多い規模の大きな公園には設置しておりますけれども、その他の公園については十分ではない状況でございます。今後は、それぞれの公園の利用状況や行政区のご意見を聞きながら、必要と判断される公園については、予算確保しながら計画的に設置していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） 大牟田議員。

○議員（7 番 大牟田 直人君） はい。前向きな回答ありがとうございます。この質問をしようと思った背景ですけど、2 年前に私のところに電話がかかってきまして、町民の方からボール遊びする場所がないと、分からないと、どこでやっていいか。そのときに、都市整備課のほうに聞きに行きました。どこが遊べるのって言って。そしたら、表をもらいました。先ほどと多分同じ内容だと思うんですけど、表をいただきまして、その内容は分かったんですが、そのときに区で決めているものと、町で決めているものがありますという話で、それ公開していいですかと、私の政治活動の報告書とか、議員活動報告書とかで公開していいですかって言ったら、都市整備課に聞いたところ、町で決めているものはいいよっていう話でした。それで、私はこういう回答を公開しました。公園によって基本的にどのボール遊びも OK、ゴムボール程度の硬さでのキャッチボールは OK、ボール遊びは禁止のルールがありますと、先ほどの 3 つのルールですね。町でルールを決めている公園と区でルールを決めている公園がありますということで、基本的にどのボール遊びも OK っていうのが人丸公園、新宮ふれあいの丘公園ほかって、私は出しました、その時ですね。ゴムボール程度の硬さやキャッチボール等は OK は、沖田中央公園っていうふうに出させていただきました。そのとき

は、これで回答したんですが、最近、西日本新聞のユーチューブで、公園のボール遊び禁止認めるっていうユーチューブがありまして、それを見たときに、このことを思い出しまして、ボール遊びができる公園って、そこで知らせたけど、みんなに伝わってないんじゃないかなと思っていていろいろ調べてみました。そしたらですね、春日市がホームページで公開していました。ボール遊びのできる公園っていう、ちょっとそれを見てもらいたいなと思います。カメラをお願いします。

〔書画カメラの映像を投映する〕

ボール遊びおすすめ公園マップっていうのを紹介しています。だから、ボール遊びおすすめ公園マップですよ、ボール遊びをしようよっていう感じですかね。公開されています。こういう地図ですね、地図にナンバーが書いてあります。ちょっと拡大するとこんな感じですかね。地図があつて写真がちょっとあつて、ナンバーが書いてある感じです。そして、おすすめ公園が書いてあります。公園の名前と住所が書いてあります。ここ何個か行ってきました。これですね、おすすめの公園と場所、結構行ったんですけど、写真があんまり撮れてなかったですね、後で見るとですね。後で写真を見せますけど、こういうルールっていうかですね、書いてあります。公園でボール遊びはできないの？ということで、アンサーとして、他の利用者や近隣住民の迷惑にならない範囲で、公園からボールが飛び出ない遊びであれば、どこの公園でもボール遊びができます。春日はどこの公園でもボール遊びができますという感じで書かれています。ルールを守って楽しく安全にボール遊びをしましょう。これですね。そして、こちらにもQ&Aで、どこの公園で安全にボール遊びができるの？ということで、防球ネットのある多目的広場がお勧めです。多目的広場のない公園については、右の一覧に載っている公園で、自治会と安全にボール遊びができるようルールをつくっていますということで、公園ごとにルールが異なるので、公園に設置してある看板を確認してルールを守って遊んでくださいということで、看板の設置が2020年から進められています。こんな感じで、5か所の看板を撮ってきました。5か所まわってですね。何かもつと行った気がするんですけどね。携帯に残っていたのが5か所の看板でした。看板1か所、1か所違います。ボール遊びが。ここでポイントはですね。ボール遊びができないことを書いてるんじゃなくて、できることを書いています。これがポジティブなので、とってもいいなと思いました。できることを書いています。グラウンドゴルフやゲートボールは、許可を取ってやりましょうみたいなことが書いてあります。この公園は、柔らかいボールで遊んでくださいという公園ですね。気をつけてほしいこととして、中学生まで、ボール遊びができるのは中学生までっていうのが書かれています。ただし、グラウンドゴルフとかは除くですね。そして、人や樹木、フェンス等にぶつけないようにということが書かれています。公園のボール遊びをしてい

い時間がちゃんと掲示されています。これも公園によって違います、時間がですね。公園によって違います。それと連絡先です。春日市役所の連絡先が書いてあります。ここは柔らかいボールって特定していないですね。時間が違います、さっきの公園とはですね。夏と冬によって違う公園もあります。ボール遊びができる時間がですね。そこは公園とか、自治体、自治体っていうか区。ここ新宮町という区ですかね、と協議しているんだと思います、自治会とですね。こんな感じですね。こんな感じで、分かりやすい、しかもポジティブな言葉だけで看板が設置されています。それとホームページに、しっかりボール遊びおすすめの公園という形ですね。できない公園ではなくて、おすすめの公園という形で載せています。とってもいいなと思います。ボール遊びをしたいときに調べて、ここ行けばいいと分かるしですね。

〔書画カメラの投映を中止する〕

子育てをしている時とかですね。なので、こういうのをぜひ新宮町でもつくっていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。公園についてはですね、今、私も先ほど答えましたボール遊びがいいのか、悪いのかというふうなのが大きな話になりますけれども、基本、私は人の迷惑にならないのであれば、ボール遊びはしていいんじゃないかなと思います。ただ、そういうふうにはボール遊びしていいよという、小さな2歳とか3歳児のお子さんが走り回ってるようなところで、バッティング練習をしたりですね、キャッチボールを始めたり、そういった人が出てきます。注意すると、役場からいいと言われたからやっていますみたいなことを答えられるので、なかなかルールを決めるのは難しいと思います。1番いいのは、人と迷惑にならないように、譲り合いながら公園を利用してくださいという一言で終わるんじゃないかなというふうに思うんですけども、それを理解できない方もいらっしゃいますので、こういったふうには、このボール遊びはいい、このボール遊びは悪いというふうな表示をしなければならぬというふうに感じております。ですので、お勧めの公園とできるボール遊び、気をつけてほしいことというふうな看板になっておりますけれども、できるボール遊びだから、どんな状況でもやっていいのかということにはならない。ただ、それをこういうふうには図示すると、書いとるやないか、できるボール遊びをしているんだから、何が悪いんだというふうなことにも発展しかねないので、厳格に書くのがいいのか悪いのかというのがあります。ですので、新宮町がつけるなら、1番上にですね、これも書いてありますけど、楽しく一緒にみんなで公園で遊びましょうというふうなのは、大前提の考え方ですよというのを書きながらですね、この看板は、よくできていると思いますので、参考にしながら作成できればい

いかなというふうに思います。

以上です。

○議長（松井 和行君） 大牟田議員。

○議員（7番 大牟田 直人君） 先ほど紹介した西日本新聞のユーチューブですけれども、禁止している公園とか、許可している公園とかいう話をしてたんですけど、ある福岡市の公園が全部禁止にしていたと。そしたら、そのある時の自治会長さんが、みんなで協議をして、柔らかいボールは遊べますよというルールをみんなで話し合っただけで決めた。しっかりルールを決めたら、マナーがとってもよくなったと。最初の禁止にする前は、マナーが悪かったけど、ちゃんとルールをみんなで話し合っただけで決めた良くなったという話をしていました。また、春日市、電話をして聞きました。電話して聞いたらですね、このホームページにあげているおすすめマップ、来年変更します、来年ちゅうか、来年度ですね、もう4月からですね、変更しますという話を聞きました。どう変更するんですかって聞いたら、公園を増やしますという話ですね。ということで、うまくいってるんだと思っています。2020年から看板設置とか進めて、うまくいってるんだと思っています。ぜひですね、新宮町でも笑顔あふれる新宮町に向けて、こういう分かりやすい看板表示、分かりやすいホームページでの公開をぜひしていただけたらと思います。次の質問に行きたいと思います。

次の質問はですね、下水道のデザインマンホール、マンホールカードに関する質問ですね。下水道への関心を高め、町の魅力を発信するデザインマンホール及びマンホールカードの作成を、という質問をさせていただきます。デザインマンホール及びマンホールカードは、下水道への理解や関心を深めるだけでなく、地域の文化や魅力を発信する有効な手段であり、観光客の興味を引くきっかけになると考えます。例えば、本町の歴史や文化、特産品など町民にも親しみがあるもの、例えばですね立花山城とかですね、横大路議員がいつも推していますジロちゃんとかですね、そういうものを題材としたマンホールがあればですね、町の魅力発信や下水道への関心喚起、そして地域活性化につながるだけでなく、町民の愛着を深める一助にもなると考えております。

本町においても、デザインマンホール及びマンホールカードの作成を検討できないでしょうか、ご見解をお伺いします。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。まずはじめに、マンホール蓋の種類について、ご説明をしたいと思います。下水道マンホールは下水道の管渠の点検や清掃などを目的として、管理を必要な箇所それぞれ設置をいたしております。本町におきますマンホール蓋の形状は、基本円形として直径600ミリ、マンホールポンプを設置している箇所につきましては、機械等を

設置している関係で900ミリ、家庭や事業所と接続するものにつきましては250ミリとなっております。また、マンホール蓋の強度に関しましては、車両のその道路によります車両の通行状況により、14トンから25トンまでの重さに耐えられる蓋というふうになっております。下水道のデザインマンホール蓋につきましては、表面に地域の歴史、文化、名所、名産等の観光資源やご当地キャラクター、アニメ、漫画等のコラボも行っているところもあり、観光資源として注目されているのも存じているところがございます。新宮町におきましては、町花である「みかんの花」をモチーフにした直径600ミリのデザインマンホール蓋、町木である「松の木」をモチーフとした直径250ミリのデザインマンホール蓋が現在ございます。ですが、大牟田議員ご質問の趣旨は、カラーのデザインマンホールであろうというふうに思いますので、カラーのデザインマンホール蓋を設置するには、通常マンホール蓋に加えまして、表面のスリップ防止の安全性、またデザインの耐久性の高い材質が求められると考えております。そのため、交通量が多い県道や国道にマンホール蓋を設置する場合は、がたつきや騒音の発生を抑え、スリップ防止の安全性を備えた次世代型のマンホール蓋を現在採用しております。その他の場所においても、スリップ防止の安全性の観点から、また車両が通行しないような場所では、設置箇所が限定されることから、カラーのデザインマンホール蓋を作成する予定はございません。次にマンホールカードについてでございますが、マンホールカードは、表面にマンホール蓋の写真と設置している場所の座表等が記されておまして、裏面にはデザインの由来や地域の観光情報などが記載されるものが一般的というふうに考えております。マンホールカードにつきましては、下水道を身近に感じ、下水道を理解していただく上で、広報手段として有用であるかと存じます。また、新宮町を知らない方でも、マンホールカードを収集している愛好家の方々にとっては、マンホールカードを目的で来町されることにより、来訪者の増加にもつながる面もあろうかというふうに考えております。

以上のように、マンホールカードを作成するメリットもあることは理解いたしておりますが、公共下水道事業は受益者負担が原則の公営企業でございまして、現在、中央浄化センターの増築等も控え、厳しい経営状況の中で、無料配布で収益を生まない事業を行うことについて、またマンホールカードは現在、多く転売されている事象も見られますので、そういったことなどから慎重に検討しなければならない事項だというふうに考えております。

以上です。

○議長（松井 和行君） 大牟田議員。

○議員（7番 大牟田 直人君） 町長の答弁は、慎重に検討しないといけないということであったので、これ以上聞いてもという気はしますが、せっかく調べてきたので、いろいろマン

ホールカードについて話をさせていただきたいと思います。カメラをお願いします。

〔書画カメラの映像を投映する〕

これは私ですね、4か所もらいに行ってきました。

〔書画カメラの投映を中止する〕

4枚ですね。志免町、古賀市、那珂川市、宇美町と4か所もらいに行ってきました。県内では、どんなところでやっているかという、県内自治体ですね、福岡県がやっています。北九州市、福岡市、福岡市はホークスのやつを出しますね。大牟田市、久留米市、筑後市、小郡市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、那珂川市、宇美町、志免町、粕屋町、岡垣町というところがやっています。4か所もらってきたので、それちょっと紹介したいと思います。

〔書画カメラの映像を投映する〕

まず那珂川市ですね。那珂川市は、博多南駅の前に同じデザインがバーツといっぱいあって、1枚だけ塗られている感じですかね。カラーになっています。那珂川市に行くんですね、このマンホールカードを取りに行くと、この1枚の紙をいただきます。これに那珂川市の下水道ミニ情報と那珂川市の紹介が載っています。宇美町ですね。宇美町はですね、町政施行100周年のときにつくられています。2020年のときですね。宇美町に行くんですね、宇美町に行くと、ふるさと納税寄附金、これカードと一緒にこれをもらえます。名刺サイズですね、これに町独自のサイトへアクセスできるようになっていると思います。志免町ですね。志免町は、もらえるものはありませんでした。これだけでした。志免町はですね。那珂川もマンホールを見に行ったんですけど、何か写真がうまく撮れてなくて、志免町は写真を撮ってきました。場所はシーメイトですね。なので、車が通ってスリップとかいう心配はないようなところかなと思います。シーメイトのところがありました。古賀市ですね。古賀市は取りに行くと、古賀市は行ったら、どっから来たかを紙に書いて、アンケートを書いてもらうみたいな感じだったんですけど、私の書く前は他県の人がずらっと書かれていましたね。古賀市のカードですね。古賀市はこういう紙をもらいます。マンホールがどこにあるよって書いてある紙ですね。古賀市のデザインマンホールを探してみようということで、役場の前にあります。市役所の前にあります。市役所の正面にあります。はい。カメラをお願いします。

〔書画カメラの投映を中止する〕

こんな形でですね、県内外からたくさんの方が取りに来ています。私、考えたのは、今、前向きには考えていないということでしたが、こうしたらいんじゃないかなとちょっと考えました。デザインを例えば立花山城とかにすると、今ちょうど立花宗茂、閻千代の誘致を

しているじゃないですか、NHKの誘致を、それと相まって相乗効果があるんじゃないかなというのを一つ思ったのと、あとですね、このデザインを例えば小中学生から夏休みの宿題とかで募集するとかすると、小中学生に対して下水道への関心喚起だとか、町の魅力発信だとかにつながるんじゃないかなとちょっと考えました。

今のところ考えていないということですが、今後ですね、そういうことを踏まえ、例えば70周年に絡めとかですね、そういうことも考えられないかなということをお伺いしたいと思います。

○議長（松井 和行君） 町長。

○町長（桐島 光昭君） はい。今、大牟田議員がそれぞれの市町村にお伺いされて、マンホール蓋のカラーデザインのやつを見せていただきましたが、私事ですが、1個もこんなのがあると知らない。へえーとしか、ただ思わないんですよ。ですので、どれだけの人がこれだけの費用をかけて、これ注目していただけるのかということもちょっとよく検討してみないといけないし、私としては1番可能性があるのは、可能性があるというか、やったらいいなと思うのは相島に猫とかですね。お魚とか、そういったのをデザインしたようなマンホール蓋を設置すれば、観光客、外国の方からも来訪者も多いですし、効果的かなというふうに思いますが、いかんせん漁業集落、ちいさな会計ですので、こんだけの費用をかける余裕が全然もとからございません。ですので、それもちょっと難しいかなというふうに考えているところです。調べてみますと、1枚だけつくったという町もございまして、周辺にずらっと並べているところもあるんでしょうけれども、並べるならば統一感を持って並べなきゃ、ちょっと見た目もどうかなというふうに思いますしですね。1枚だけポツンとあっても、なかなか効果はいかほどのものかなというふうには考えます。ですので、先ほど申しましたように、やっぱりちょっと慎重に検討しなきゃいけないなというふうに思います。

以上でございます。

○議長（松井 和行君） 大牟田議員。

○議員（7番 大牟田 直人君） はい。慎重にということで答弁をいただきましたが、私の思いはマンホールカードをつくることじゃなくて、笑顔あふれる新宮町ですので、ぜひ今後も笑顔あふれる新宮町に向けて、お互い頑張っていきたいなと思います。ということで私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（松井 和行君） 以上で一般質問を終わります。

○議長（松井 和行君） お諮りいたします。本会議の会議中、誤読などによる字句、数字等の整理訂正につきましては、会議規則第44条の規定により議長に委任していただきたいと思

いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松井 和行君） ご異議なしと認めます。よって、誤読などによる字句、数字の整理訂正は議長に委任していただくことに決定いたしました。これをもちまして本日の日程を終了し、散会いたします。お疲れさまでした。

午前 11 時 49 分散会